ダイバーの皆さまへ

日本スクーバ協会
2012年11月

日本スクーバ協会では、ダイビング業界内での語彙の統一化に向け検討を進めております。まだ途中の段階ではございますが、中間報告として以下 5 枚の通り、統一すべき語彙の指針をとりまとめましたので、ご案内申し上げます。

目的と今後の指針は下記の通りです。

■ 目的 : なるべく多くのメーカーが統一された語彙をカタログや取扱説明書で使用する。
以て消費者の誤解を未然に防ぎ、理解を容易にする事で、安全性向上の一助とする。

■ 活用方法 : 各社取扱説明書の作成時や更新時、またカタログ作成時に、なるべく今回の指針に則った語彙を使用する。

■ 色分け : 青／推奨語彙
黄／注意して使用すべき語彙
紫／業界語彙（使用可）
緑／メーカー独自語彙
赤／使用不可語彙
色無／使用可

なお、ＢＣのウエイトポケット関連とダイビングコンピュータ関連は各社で使用している語彙の相違が多く、指針をまとめる事が現状では困難である為、将来の研究課題とさせて頂きます。

日本スクーバ協会　機器基準策定委員会用語統一指針　（制定：2012.9.19 ver.1）

色	区分	色	区分	色	区分
（赤）	使用不可	（黄）	使用注意	（紫）	ダイビング（業界）用語
（水色）	推奨用語	（緑）	メーカー独自用語	色無し	使用可

レギュレーター	結論	
スキューバダイビング	使用不可	
スクーバダイビング	**スクーバ協会という名でもあることから、「スクーバダイビング」に統一**	
重篤な事故	使用不可	
重症事故	**スクーバ協会取説共通掲載事項で「重症事故」と表記されています。**	
重度の	使用可	
軽度の	使用可	
重大な	使用可	
死亡事故	**スクーバ協会取説共通掲載事項で「死亡事故」と表記されています。**	
危険性	使用可	
取扱方法	使用可	
禁止事項	使用可	
物損事故	**スクーバ協会取説共通掲載事項で「物損事故」と表記されています。**	
安全性	使用可	
潜水指導団体	**※スクーバ協会取説共通掲載事項で「潜水指導団体」と表記されています。**	**※Cカード評議会は潜水指導機関、一般的には殆どが潜水指導団体、あるいは指導団体**
プレインスペクション	使用不可（使用前点検など日本語で）	
コマーシャルダビング	使用可だが、意味が分からない人が多いので日本語が望ましい	
作業ダイビング	※特に港湾工事などを指す場合	※その他ページ参照
職業ダイビング	※港湾工事、漁業、ダイビングインストラクター、ガイドダイバーなどの潜水総称	※その他ページ参照
損傷	使用可だが、語彙的に「破損」が望ましい	
混合気体	使用可	
ナイトロックス	**推奨用語　あるいは,エンリッチド・エアー・ナイトロックス**	
エンリッチド	略称としては「ナイトロックス」推奨	
圧縮空気	使用可	
磨耗	使用可	
漏洩	使用可	
エアー漏れ	**推奨用語　Cカード評議会**	
気体漏れ	使用可だが、エアーを使用することが望ましい	
空気漏れ	使用可だが、エアーを使用することが望ましい	
目視	使用可　※目視点検などのように使われる	
視認	使用可　※主に視認性が良いなどのように使われる	
セットアップ	使用可　※誰でも理解できる英語	
セッティング	使用可　※誰でも理解できる英語	
ダイビング本数	使用可　※ダイビング本数＝タンク本数は誰でも理解	
タンク本数	使用可　※ダイビング本数＝タンク本数は誰でも理解	
定期点検	使用可　※定期点検は文字通りの点検	
オーバーホール	使用可　※オーバーホールはパーツ交換、洗浄を伴う行為	
修理	使用可	
メンテナンス	使用可	
圧力	**推奨用語**	
プレッシャー	基本は圧力を使用。「ハイプレッシャー」など用語的には使用可。	
H.P.	**ポート部分及びホース推奨用語　H.P.（高圧）表記も可**	※国内で一般的な「中圧」がレギュレーターポートのL.P.と整合していないことに問題あり。
M.P.	使用不可　※混乱を招くので使用不可	
L.P.	**ポート部分及びホース推奨用語　L.P.（中圧）も可**	
高圧	中圧をL.P.呼称にする場合は、ホースとポート部分は必然的にH.P.が望ましい。	
中圧	ガス事業法では「中圧」だが、ポートとホースの整合性上ではL.P.が望ましい。	
セカンドステージ	**推奨用語**	
２段部	使用不可　※一般的に使われる事がない	
ファーストステージ	**推奨用語**	
一段部	使用不可　※一般的に使われる事がない	
初動抵抗	使用可、他に初期抵抗も可	
クラッキングエフォート	意味が分かりにくいものは使用しないことが望ましい。	
吸気抵抗	**推奨用語**	
排気抵抗	**推奨用語**	
呼吸抵抗値	使用可、「吸排気抵抗」も使用可	
WOB	意味が分かりにくいものは使用しないことが望ましい。	
ダストキャップ	**推奨用語　※Cカード評議会**	
インレットキャップ	ダストキャップに統一化が望ましい。	
ポート	**推奨用語**	
寒冷地対応	使用可	
寒冷地仕様	**推奨用語**	
ウオームウオーター仕様	国内では必要なし。海外取扱説明書では使用あり。コールドウォーター仕様も同じ。	
エアーフロー	フリーフローに統一化が望ましい。	
フリーフロー	**推奨用語**	
インジェクション	意味が分かりにくいものは使用しないことが望ましい。	
流量調整	**推奨用語**	
バネ圧調整	意味が分かりにくいものは使用しないことが望ましい。	
ベンチュリー調整		
重い　（呼吸感）	**推奨用語**	
渋い　（呼吸感）	使用可	
軽い　（呼吸感）	**推奨用語**	
バランスドダイアフラム	**推奨用語　バランス→バランスド**	
バランスドピストン	**推奨用語　バランス→バランスド**	

B.C.	結論	
B.C.	**推奨用語　※B.C.という文字があれば、B.C.D.、B.C.J.でも可**	
浮力調整器（具）	※B.C.の説明用語として使用可	
潜行	限定使用可（水中を横移動の場合）	
潜降	**推奨用語　※基本的下方向は潜降を使用**	※「潜降」と言う言葉は辞書にはないが、ダイビング用語として定着している
劣化	使用可	
老朽化	語彙的に劣化が望ましい	
加圧	使用可	
昇圧	使用可	
浮力	使用可	
浮力調整	使用可	
浮力制御	使用可	
浮力コントロール	使用可	
ブラダー	使用可だが、**ブラダー（浮力体）**の表記推奨	※ブラダー（浮力体）表記は最初に記載してあれば、以降ブラダーのみで可
空気袋	浮力体、ブラダー（浮力体）の表記推奨	
浮力体	**推奨用語**	**ウエイトポケット関連については継続して研究課題とする。今回指針は出さない。**
ウエイトポケット	※右記欄外参照	※ウエイトポケット、ウエイトモジュール、ウエイトカートリッジなどのパーツ名称は、
ウエイトモジュール	ウエイトカートリッジ　※右記欄外参照	各メーカーで、同じ言葉が違う部分を指しているケースがあることが判明。
補助ポケット	使用可	統一することが望ましいが、メーカー間での利害があり難しい。　再検討必要。
ウエイト	**推奨用語**	
鉛	ウエイトが望ましい	
おもり	ウエイトが望ましい	
生地	使用可	
面ファスナー	**推奨用語　メーカー不明は全て面ファスナーで統一**	
ベルクロ（商標）	ベルクロを使っていれば使用可	
マジックテープ（商標）	マジックテープを使っていれば使用可	
クイックロンファスナー（商標）	クイックロンファスナーを使っていれば使用可	
ニフコバックル（商標）	ニフコバックルを使っていれば使用可	
クイックリリースバックル	※バックルと言う言葉が入っていれば問題なし	
腹ベルト	殆ど使われていない	
ウエストベルト	**推奨用語**	
カマーバンド	使用可　※ウエストベルトの方が分かりやすい	
ショルダーストラップ	**推奨用語**	
ショルダーウェビング	使用可	
インフレーションボタン	使用可だが、インフレーション（給気）ボタン表記推奨	※インフレーション（給気）ボタン表記は最初に記載してあれば、以降インフレーションのみで可
給気ボタン	**推奨用語**	
デフレーションボタン	使用可だが、デフレーション（排気）ボタン表記推奨	※上記インフレーションボタンの項に同じ
排気ボタン	**推奨用語**	
オーラルインフレーション		
オーバープレッシャーリリーフバルブ	オーバープレッシャーリリースバルブ	※オーバープレッシャー及び過剰圧力という言葉があれば可
過剰圧力逃がし弁		
スタビライジングジャケットタイプ		
ショルダーバックルタイプ	使用可	
バックフロートタイプ	使用可	
コネクター	**推奨用語**	
カプラー	**推奨用語**	
プラグ	コネクターが望ましい	
カプラージョント	カプラーが望ましい	
肩バックル	使用可	
ショルダーバックル	**推奨用語**	
逆止弁	**推奨用語**	
ストップバルブ	逆止弁に変更が望ましい	
シール	使用可	
ウエルディング	使用可	
インフレーターホース	使用可	

ゲージ	結論
ゼロ点	
ゼロポイント	
ゼロ点調整ネジ	
ゼロポイント調整ネジ	
最大水深インジケーター	
最大水深置き針	
圧力破裂栓	
オーバープレッシャープラグ	
圧力計用タイコ	※一般ユーザーには関係ない言葉
圧力計用コマ	※一般ユーザーには関係ない言葉
圧力計用ジョイント	※一般ユーザーには関係ない言葉
圧力計	※残圧計が一般的で望ましい
残圧計	**推奨用語**
ブルドン管式	
スパイラル管式	
ダイアフラム式	
オイル封入型	
オイルフィルドタイプ	
潜水記録	使用せず
ログ	使用
ホースガード	
ホースプロテクター	
平均水深	使用可
平均深度	使用可　※Cカード評議会
最大水深	使用可
最大深度	使用可　※Cカード評議会
浮上速度	使用
ローバッテリー	使用可
電圧低下	使用可　「電圧が下がるという」言葉なども
窒素排出時間	使用可　体内窒素排出時間、飛行機搭乗禁止時間
高所潜水	**推奨用語**
高地潜水	使用可
高度潜水	高度は語彙的に間違い（低くても高度）
残留窒素	基本は「体内窒素」
酸素比率	使用可
酸素分圧	聞こえ的に分かりづらい部分あり。
酸素割合	使用可　※Cカード評議会
酸素混合比	**推奨用語　※Cカード評議会**
酸素濃度	使用、「酸素濃度比率」も使用
減圧停止	
デコンプレッション	※英語表記の意味なし。減圧を使用
無減圧潜水時間	※本来、無減圧潜水と言う言葉は不適切
減圧潜水	※あまり適切な言葉とは言えない
体内窒素圧（量）	
残留窒素	※残留という言葉は不適切
M値	
減圧不要限界	
コンパートメント	
速い組織	早い組織も可
遅い組織	
ダイブコンピュータ	**推奨用語　※ダイビングコンピュータ**
ダイブコンピューター	使用可　※ダイビングコンピューター

ダイブコンピュータについては継続して研究課題とする。今回指針は出さない。

※ダイブコンピュータ取説や講習マニュアルの間で表記がバラバラ。
　減圧関係用語に関しては、もう一度話し合いをする必要性あり。
　大切なのは一般ダイバーの皆さまが正しい知識を持ちやすい言葉を選ぶこと。

※コンピュータとコンピューターの表記は入り乱れて使用されている。
　NEC、富士通、東芝など殆どのハードメーカーがコンピュータ表記を採用。
　この理由としてはJISの表記規格に「3音以上の言葉は長音を省略する」というものがあるからである。
　これに対して、ソフト系の会社はコンピューター表記を採用するものが多く、
　マイクロソフトは従来コンピュータ表記としていたものをコンピューター表記に改めた。
　ダイビング業界としてどちらかを推奨用語とするのであれば、ハードの主流でJIS規格に沿った
　「コンピュータ」を上げることになる。

マスク・フィン・スノーケル	結論
オプチカルレンズ	他に、矯正レンズ、コレクティブレンズ　※英語には（度付き）併記推奨
度付きレンズ	**推奨用語**
オープンヒールフィン（タイプ）	使用可だが、ストラップフィン（タイプ）推奨
ストラップフィン（タイプ）	**推奨用語**
フルフットフィン（タイプ）	**推奨用語**
ブーツフィン（タイプ）	使用可だが、フルフットフィン（タイプ）推奨
アジャスタブルフィン（タイプ）	使用不可
ブーツポケット	使用しているメーカー僅少
フィンポケット	使用可だが、フットポケット推奨
フットポケット	**推奨用語　※Cカード評議会はフットポケット**
ラバーフィン	使用可
ゴムフィン	**推奨用語**
プラスチックフィン	**推奨用語　※プラスティックフィン表記あり**
耳抜き	
圧平衡	
チューブ	パイプが国内では一般的
パイプ	**推奨用語**
蛇腹（ジャバラ）	**推奨用語**
フレキシブルジョイント	他にフレキシブルジャバラジョイントなど
視野	使用可　※他に視界など
内容積	使用可　※他に内容量も可
シリコン	= silicon　シリコンは二酸化ケイ素の意味。
シリコーン	= silicone **推奨用語。素材はシリコーン（有機ケイ素ポリマー）が正しい表記。**
スノーケル	**推奨用語**
シュノーケル	スノーケルに統一化が望ましい
スノーケリング	**推奨用語**
シュノーケリング	スノーケリングに統一化が望ましい
排水弁	**推奨用語**
エキゾーストバルブ	排水弁に統一化が望ましい
パージバルブ	排水弁に統一化が望ましい
ドライスノーケル	
スプラッシュガード	
曇り止め、くもり止め	**推奨用語**
アンチフォグ	くもり止めに統一化が望ましい
尾錠	使用不可　※一般的に使われる事がないので何を意味するのか分からない
フィンキック	使用可
フィンワーク	使用可
フィンが柔らかい	使用可
フィンがしなる	使用可
フィンが硬い	使用可
フィンがハード	「ハードタイプ」は使用可　※状態を示す時は「フィンが硬い」
フィンがソフト	「ソフトタイプ」は使用可　※状態を示す時は「フィンが柔らかい」
反発性	使用可
反発弾性	使用可
フレキシブル	使用可　※割と一般的な英語
フィンのブレード	使用可
フィンのキール	使用可　※キールもリブも使用説明には関係ない用語で問題なし
フィンの（サイド）リブ	使用可　※キールもリブも使用説明には関係ない用語で問題なし
スノーケリングベスト	**推奨用語　※Cカード評議会**
フローティングベスト	スノーケリング用はスノーケリングベストが望ましい

その他	結論
レジャーダイビング	使用可
スポーツダイビング	使用可
レクリエーショナルダイビング	使用可
プロフェッショナルダイビング	使用可
コマーシャルダイビング	使用可だが、意味が分からない人が多いので日本語が望ましい
作業潜水	※特に港湾工事などを指す場合
職業潜水	※港湾工事、漁業、ダイビングインストラクター、ガイドダイバーなどの潜水総称
調査ダイビング	使用可
大深度潜水	使用可
ディープダイビング	使用可
テックダイビング	使用可
テクニカルダイビング	使用可
ケーブダイビング	使用可
レックダイビング	使用可
オープンウオーター	使用可
海洋	使用可　「海」「海水」「海面」等も使用可
電池	使用可
バッテリー	使用可　誰でも分かる英語
ヘルメット潜水	歴史解説では使用の可能性あり
フーカー潜水	歴史解説では使用の可能性あり、リブリーザー等も同様
ナイトロックスダイビング	使用
ヘリオックスダイビング	使用せず
トライミックスダイビング	使用
CE規格	CE規格という言葉はありません。「EN規格」です。
CEスタンダード	CEはマーキングです。使い方に注意が必要です。
CEマーキング	推奨用語
EN規格	推奨用語